

## 研究開発課題概要書（終了課題）

### 1. 課題名（期間）

異種地図データ間の属性情報の整合性についての評価手法の開発および知見の蓄積  
（平成 14 年度～平成 16 年度）

### 2. 主担当者（所属グループ）

阪田 知彦（住宅・都市研究グループ）

### 3. 背景及び目的・必要性

「都市再生」や「既存ストック活用型都市の形成」に代表される都市問題に対し、都市計画地理情報システム（都市計画 GIS）を用いた高度な都市構造などの分析は、より重要となると考えられる。都市計画 GIS データを基に高度な都市空間構造の分析・検討を行う際、複数の作成意図の異なる地図データ（異種地図データ）を基にした分析を行うことが少なからずある。しかし、地図データには作成仕様や作成目的、作業の過程で発生した個別的な作図・作成経緯があるため、こうした異種の地図データ間では、図形単位でのズレや個別の建物や土地に付与された属性情報が異なる場合が少なくない。こうした状況は、地図データを用いた分析を困難にする要因となっている。現状では、こうした異種地図データ間の属性情報についての評価手法の実用化に向けた包括的な研究開発は行われておらず、早期の検討が必要である。

以上のような背景を受けて、本課題では異種地図データ間の整合性を効率的かつ高精度に評価する技術の開発を主軸とし、同時に都市計画分野での GIS のさらなる利活用を支援するための要素技術の開発を含めた包括的な検討を行うことを目的とする。

### 4. 研究開発の概要・範囲

本研究では、多岐にわたる問題・現象を取り扱うため、以下に掲げる中課題・小課題を設け、研究を実施した。

- A. 空間的整合性および属性情報の整合性に関する実証的知見の蓄積と整合性評価手法の検討
  - 図式規程による属性対照テーブルの作成
  - 図形同士のマッチング手法の高度化
  - 評価単位の変化に対応した、整合性評価手法の検討 など
- B. 都市計画分野での GIS の利活用を支援するツールの開発と普及状況調査
  - 図郭間分断図形結合ツール「MapComb」「MapComb for network」の開発
  - 自治体の都市計画部局での地形図整備と GIS の利活用動向のアンケート調査の分析 など

### 5. 達成すべき目標

- A. 整合性評価手法の提案とプロトタイプツールの作成。
- B. 都市計画分野での GIS の利活用を支援するためのツールの実用性と資料の有用性。

### 6. 研究開発の成果

- A. 整合性評価プロトタイプツールプロトタイプツールの作成 など
- B. 図郭間分断図形結合ツール「MapComb」「MapComb for network」の開発 など